

第1回 県立高等学校改革懇談会 『相馬東・新地』

日時：令和元年 5月31日（金） 14：30～16：00

場所：新地高等学校 視聴覚室

福島県教育委員会

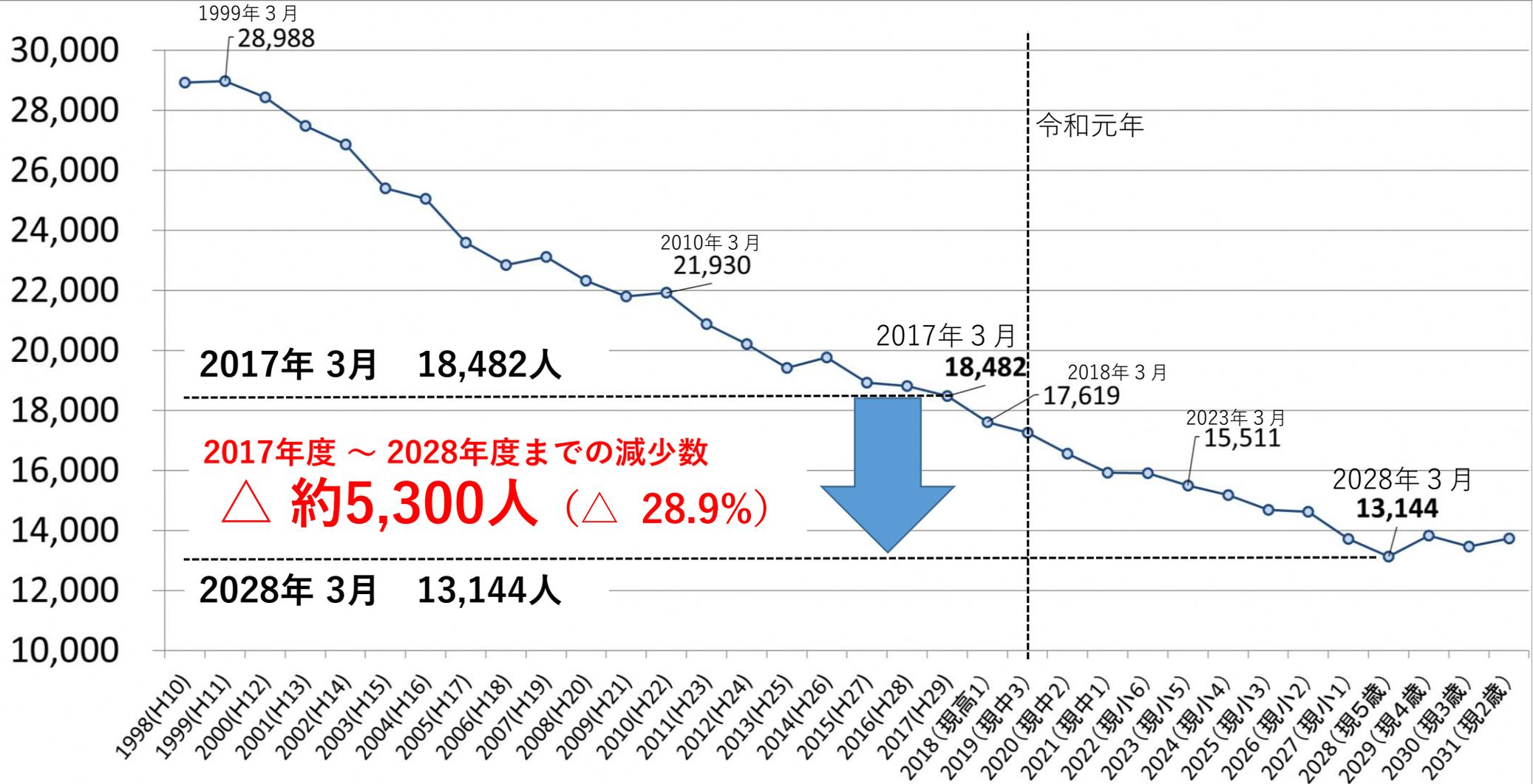
本日の進め方

1	県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯
2	相馬東高校・新地高校の現在の状況
3	今後の再編整備について

1 県立高等学校改革前期 実施計画策定の経緯

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）

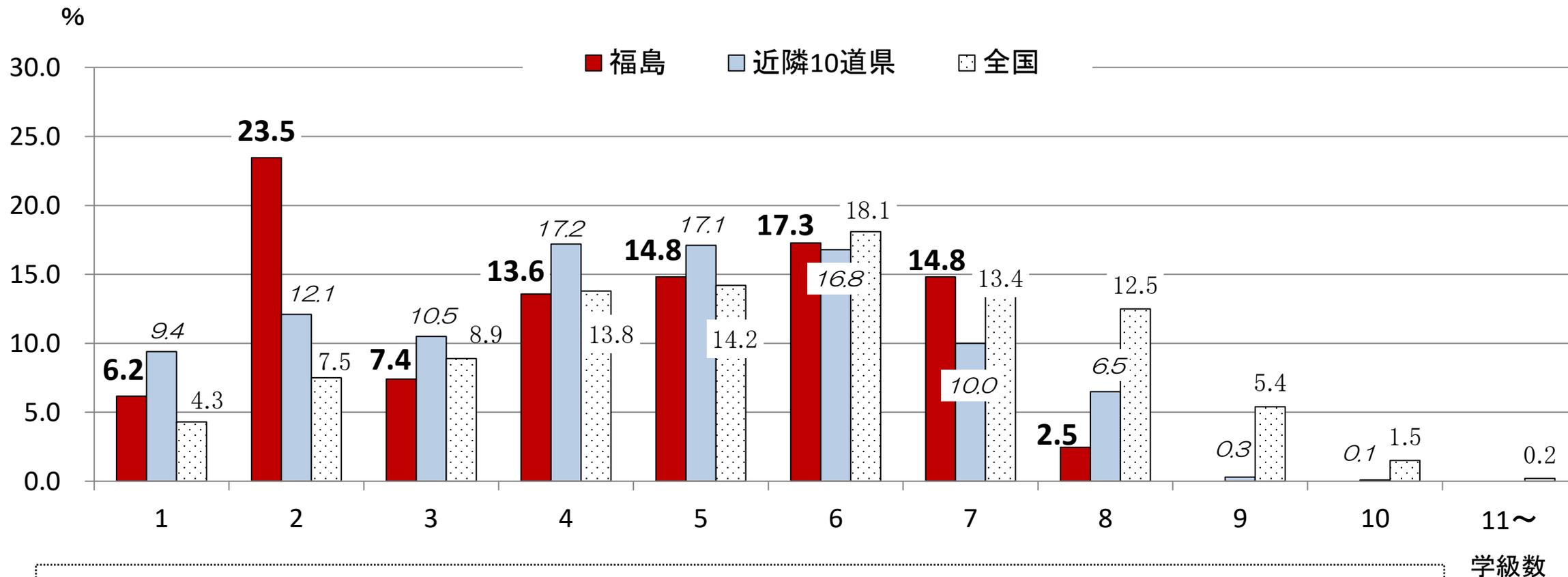


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）

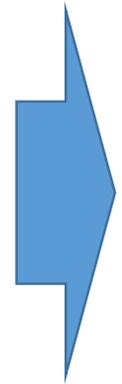


出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣
10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**
(中学校卒業予定者数が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齢化
(地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
(例：主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入)
- 高等学校の小規模化
(3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の**学習ニーズの多様化**
(学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
(本県の復興に関わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)



高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進

基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

基本方針 3 **学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化**

基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

職業教育推進校

地域協働推進校

定時制・通信制高校

小規模校のメリット・デメリット

【メリット】

- 学校がある地域の生徒が負担なく通学できる。
- ニーズが多様化する中で、少人数を希望する生徒が通学できる。

【デメリット】

- 一定の集団規模の中で、切磋琢磨しながら社会性や向上心を育むことが難しい。
- 学級数減に伴う教職員数の減少により、多様な科目選択や部活動など学校の教育活動が制限される。

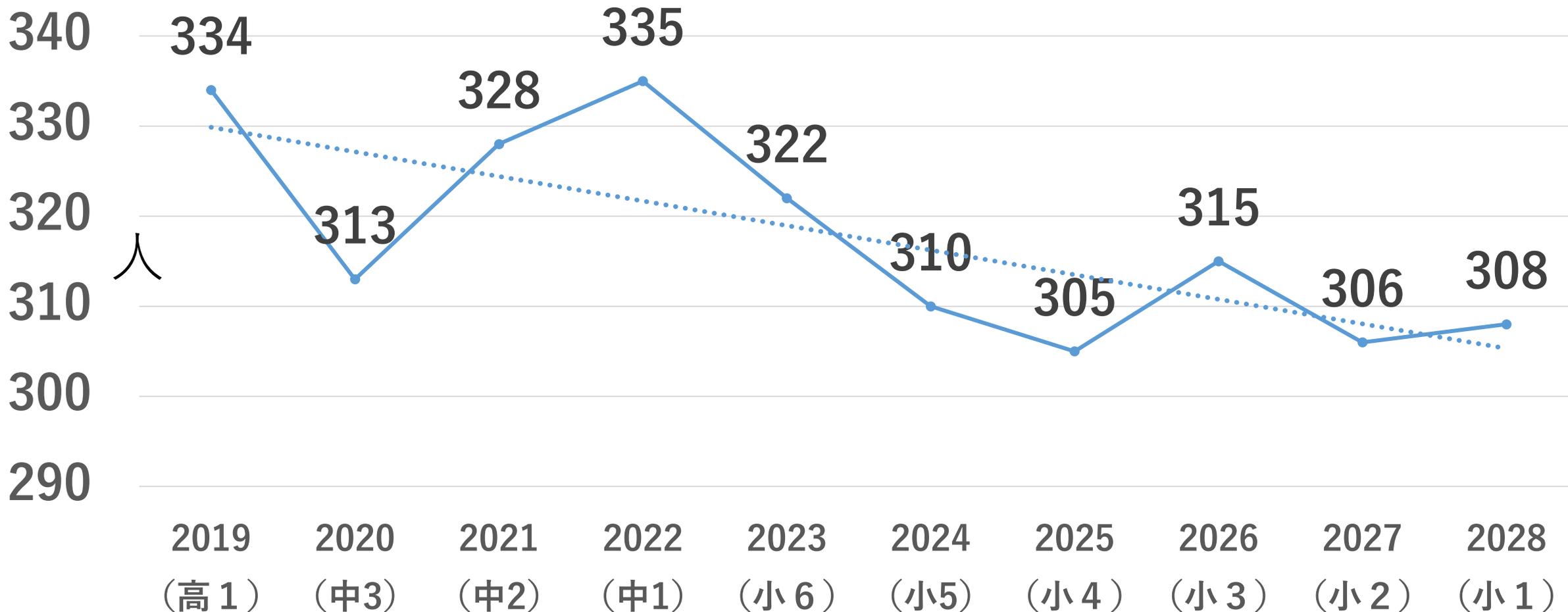
再編整備（統合）による効果

- 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒同士が切磋琢磨しながら向上心を高めながら、人間性を育むとともに、探究的な学びや他学科との連携など、新たな取組をとおしてより深い学びが実践できる。
- 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され、多様な選択科目や部活動からの選択が可能となる。

2 相馬東高校・新地高校 の現在の状況

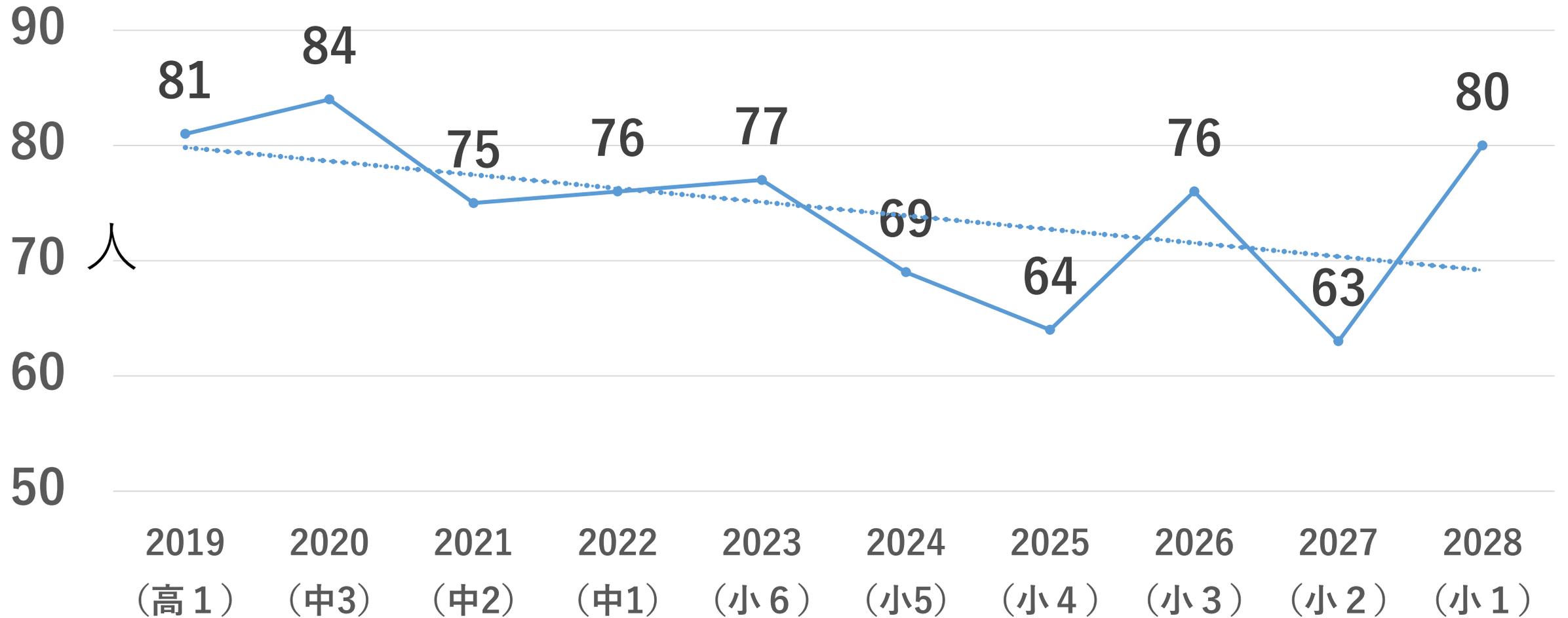
少子化の進行

相馬市の中学校卒業者と卒業見込者数の推移



少子化の進行

新地町の中学校卒業生数と卒業見込者数の推移



学校の沿革概要等

相馬東高校

○ 沿革 (創立112周年)

- 明治36年 4月 私塾「四行塾」として開設
- 明治40年 5月 相馬郡立相馬女子技芸学校となる (創立)
- 昭和23年 4月 福島県立相馬女子高等学校となる
- 平成15年 4月 福島県立相馬東高等学校となる。男女共学
- 平成29年11月 創立110周年記念式典挙行

○ 設置学科 (平成30年度現在)

全日制	1 学年 4 学級	計 1 2 学級		
・ 総合学科	4 学級			
5 系列	情報ビジネス	生活文化	芸術文化	
	スポーツ	文理		

○ 面積	敷地総面積	45,912㎡		
運動場	26,825㎡	建物地	19,087㎡	

新地高校

○ 沿革 (創立113周年)

- 明治39年 1月 新地村実業補習学校として創立
- 昭和23年 4月 福島県立新地高等学校となる
- 昭和27年 3月 現在の新地町小川字貝塚西13番地 1 に移転
- 平成28年11月 創立110周年記念式典挙行

○ 設置学科 (平成30年度現在)

全日制	1 学年 2 学級	計 6 学級
・ 普通科	2 学級	

○ 面積	敷地総面積	41,340㎡		
敷地	18,657㎡	運動場	19,068㎡	
その他	3,615㎡			

進路状況（過去3年間）

学校要覧より

【相馬東高校】

進路先	大学	短大	専門学校	その他	就職	その他 (未定)	合計
卒業年度							
28	17	10	87		39		153
29	31	14	86	3	21		155
30	27	16	71	2	34		152

【新地高校】

進路先	大学	短大	専門学校	その他	就職	その他	合計
卒業年度							
28	9	0	7		33		49
29	6	1	17	2	28		54
30	6	2	12	1	43		64

部活動

【相馬東】

• 運動部

硬式野球 サッカー バドミントン

柔道 テニス 剣道 陸上競技

弓道 ソフトボール 卓球

バレーボール バスケットボール

ソフトテニス

• 文化部

調理 商業研究 演劇 合唱 美術

書道 吹奏楽 日本文化

• 同好会

英語同好会

【新地高校】

• 運動部

総合運動 硬式野球 サッカー

バスケットボール バレーボール

バドミントン ソフトテニス

卓球

• 文化部

茶道 美術 家庭クラブ

アグリサイエンス

• 同好会

音楽同好会

入学状況

相馬東高等学校 ※充足率が100.0%を超えるのは、外国人特枠による入学者を含むため

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	240				200		160						
入学者数	241	243	240	240	198	187	160	160	160	159	160	161	160
充足率 (%)	100.4	101.3	100.0	100.0	99.0	93.5	100.0	100.0	100.0	99.4	100.0	100.6	100.0

新地高校

入学状況

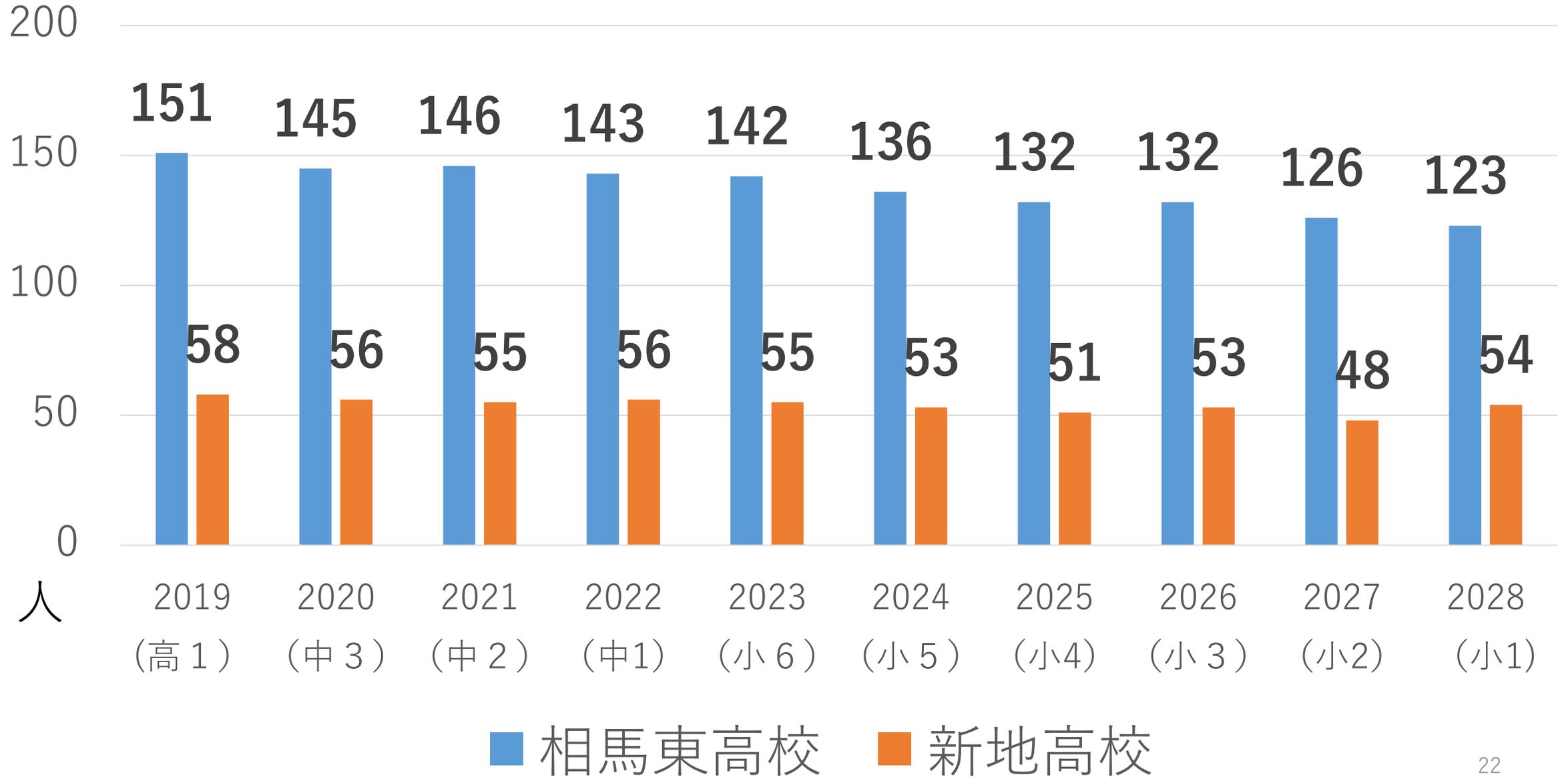
年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	80												
入学者数	80	80	80	61	80	80	64	52	58	68	58	72	46
充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	76.3	100.0	100.0	80.0	65.0	72.5	85.0	72.5	90.0	57.5

平成30年度 新地町・相馬市の中学校卒業者の高校進学先

(平成30年度卒後の進路調査より)

	出身 中学校 名	卒業 者数	進学 者数	新地	相馬東	相馬	原町	相馬農業	小高産業技術	公立その他	私立	その他	県外
新地町	尚英	84	83	20	16	21	2	2	14	3	1	4	0
	進学者に対する割合(%)			24.1%	19.3%	25.3%	2.4%	2.4%	16.9%	3.6%	1.2%	4.8%	0.0%
相馬市	中村第一	152	152	20	27	65	1	3	15	6	7	2	6
	中村第二	76	73	17	24	18	0	0	6	5	1	0	2
	向陽	123	123	9	43	41	0	12	11	2	2	1	2
	磯部	5	5	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0
	小計	356	353	48	96	125	1	15	32	13	10	3	10
	進学者に対する割合(%)			13.6%	27.2%	35.4%	0.3%	4.2%	9.1%	3.7%	2.8%	0.8%	2.8%

高校入学者数の予測



3 今後の再編整備について

統合校の方向性

相馬東高校

定員160名
○ 総合学科(4学級)

新地高校

定員80名
○ 普通科(2学級)

2022年4月開校予定
相馬東・新地統合校 (仮称)

定員：総合学科 200名(5学級)
場所：相馬東高校校舎

統合校（案）のイメージ図

相馬東・新地統合校

キャリア指導推進校として、大学進学から就職まで、生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実により、地域の未来を担う人材を育てる学校

● 学びの継承と充実

相馬東と新地の教育活動を継承し、各系列の特徴を生かした専門的な知識・技能を習得や、丁寧な学習指導・進路指導を実践することで、特色化を図ります。

● 新地の実践してきた命の教育や震災被害の伝承活動などを防災教育の観点から継承するなど、地域と連携した教育活動の充実を図ります。

検討する統合校の特色化

丁寧な学習指導

情報ビジネス・生活文化・
芸術文化・スポーツ・文理
の5系列

主体的・対話的で
深い学びの実現

地域と密着した探究的・
実践的な学びの導入
(地域を学習フィールドとした
探究活動)

環境・防災系列（仮称）
の新設

今後の予定

会議等のスケジュール

第2回改革懇談会 10月以降

(以降必要に応じて開催)

今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会 (両校の教職員で構成される検討委員会)
- ワーキンググループ (各校の校内検討委員会)